

会議録

- 1 会議名 第30期 第3回北九州市スポーツ推進審議会
- 2 議題等 (1) 議題
ア 令和6年度主要事業について
イ スポーツ団体に対する補助について
(2) 報告
ア 北九州市スポーツ推進計画の骨子案について
イ 「北九州マラソン2024」大会の報告及び次回大会の日程について
ウ 令和6年度全国高等学校総合体育大会について
エ 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について
- 3 開催日時 令和6年7月22日(月) 14:30～16:00
- 4 開催場所 市役所庁舎3階 特別会議室A
- 5 出席者 委員10名、事務局(北九州市)13名 計23名

【審議会委員】 秋山 和徳(福岡県高等学校体育連盟副会長)
有延 忠剛(北九州市障害者スポーツセンター所長)
梶山 幹子(北九州市小学校体育連盟)
倉崎 信子(九州栄養福祉大学教授)
酒井 孝子(福岡県女子体育連盟理事長)
調 弘誓(NHK北九州放送局長)
長戸 操(門鉄広告社代表取締役社長)
濱田 美佐(北九州市スポーツ推進委員協議会)
久澄 喜裕(公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長)
船津 京太郎(九州共立大学教授)
※五十音順

【事務局】 井上 保之(都市ブランド創造局長)
濱田 孝洋(都市ブランド創造局スポーツ部長)
大江 晃(都市ブランド創造局スポーツ振興課長)
川合 浩治(都市ブランド創造局スポーツ施設担当課長)
小島 邦裕(都市ブランド創造局インターハイ担当課長)
三輪 真也(都市ブランド創造局スポーツコミッション担当課長)
遠近 泰史(都市ブランド創造局スポーツイベント担当課長)
大下 義邦(都市ブランド創造局スポーツイベント担当課長)
ほか5名が出席

6 議題内容

(1) 議題

ア 令和6年度主要事業について

事務局より説明を行い、下記のとおり、質疑応答があった。

委員A：モデルプロジェクト再配置計画はどの辺りで実施されているのか。

事務局A：現在、大里公園の再整備を行っており、一部供用開始されている。大里の競輪場の跡地を活用したプロジェクトであり、段階的な整備をしている。公園のリニューアルは完成しており、また、隣接して一部、居住エリアを民間で開発してもらっており、民間のマンションや戸建てエリアについては、概ね完成している。
なお、スポーツ施設としては、昨年度から今年度にかけて、門司体育館、大里柔剣道場、大里プールの複合化計画を具体化する段階である。

事務局B：門司球場はそのままである。

委員B：大里地域の整備については、地域として喜んで期待しているところ。

イ スポーツ団体に対する補助について

事務局より説明を行い、意見や質問事項は無かった。

(2) 報告

ア 北九州市スポーツ推進計画の骨子案について

事務局より報告を行い、下記のとおり、会長代理の補足説明及び委員による意見・質疑応答があった。

会長代理：報告1「北九州市スポーツ推進計画の骨子案」について、第1回検討会で活発な意見交換が行われたため、主な意見を踏まえ、検討会座長としての立場から補足する。

主な意見として、「スポーツで稼ぐというベクトルを関係者と共有し、調和や共感を得るために、方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲが連動し、方針Ⅰで稼いだお金が方針Ⅱや方針Ⅲに還元できる絵姿が示され、まさに還元される視点が必要である」という意見がなされた。

次に、方針Ⅰに関する主な意見として、「北九州市は、大規模国際スポーツ大会で実績ある都市であることから、国際性を感じられるキーワードを踏まえたほうが良い」という意見がなされた。

方針Ⅱに関する主な意見として、「公園や学校など、既存の身近な環境・スペースを活用したスポーツの場の有効活用の促進といったニュアンスが伝わると良い」という意見がなされた。

方針Ⅲに関する主な意見として、「指導者のカテゴリーに、「パラスポーツ指導者」の視点を追加すべきや、子どもがアスリートと触れ合う

機会を充実させるという視点を明確にしてほしい」などの意見がなされた。

今後、これらの意見を計画の素案に落とし込んでいくこととなる。素案についても、皆様にご報告させていただく。

委員A：方針Iの「稼げるまち」というところで、今年度に様々な国際スポーツイベントが開催されるという説明があったが、例えばネーションズリーグを挙げるとすれば、開催団体が稼げるというところはあると思うが、市にとって稼げる部分とはどのようなことを想定しているか。

事務局A：先日開催されたネーションズリーグにおいては、北海道から沖縄まで幅広く本市に観戦者が来場し、小倉駅周辺は非常に賑わいを見せた。このように、観戦者がスポーツの試合の観戦後に街に飲食代や宿泊代をもたらしてくれることに期待しており、そのような部分も含め「稼げる」というところを想定している。

今年度からスポーツ部は都市ブランド創造局へ再編され、文化や観光と同じ局となった。今後、スポーツだけでなく、スポーツと別要素の掛け合わせについて、審議会委員の意見も伺いながら、スポーツ観戦に来た人に幅広く北九州市を見てもらい、北九州市の良さや楽しさなどの魅力を発信していけば次につながってくると思う。

このような取り組みを通じ、長く北九州市に滞在してもらい、消費してもらい、北九州市のことを好きになってもらいたいと考えている。

委員B：大きなイベントをすると、北九州市はどうしても泊まるホテルが少ないという指摘があり、1/3から2/3の観光客が北九州市から福岡市へ流れているという話も聞いている。

そこについては、もう少し整理をしていくなり、ホテルを増やしていくなど、北九州市にお金を落としてもらうならば、市としては器が小さいのではないかという話もあるが、見解を伺いたい。

事務局A：ここ数年、北九州市で様々な大規模国際大会が開催されており、我々のこれまでの誘致活動が実りつつある。大規模国際大会の誘致などを継続することで、民間も活性化すると考えているため、継続して努力してまいりたい。

また、近隣自治体である福岡市や下関市との連絡調整をはじめとする協力も、今後は必要になっていくと考える。

委員C：北九州市にスポーツ観戦に来た観光客が、スポーツがない際にも、再度、観光に訪れることを促すような何かしらのアイデアを入れてみるとよいのではないかと思う。

事務局A：バレーボールネーションズリーグにおいては、会場である西日本総合展示場新館に北九州デスクを作り、観光パンフレットなどを配布した。9月から11月にも大きな大会が市内で開催されるため、「スポーツ」＋「観光」などの取り組みを行い、北九州市の良さをしっかり分かっていたらよいよう取り組んでまいりたい。

委員D：施策4「子供のスポーツ活動の推進」の部分でご意見させていただく。義務教育とは、すべての子供たちが体験したり学んだりすることができるもの。また、事業の中には無料招待を活用したスケート教室があり、スケート場に行く経験や氷の上を歩くことなど、そういった経験を積めるような施策は、是非、続けてほしいと考えている。

事務局A：今年11月が本市の「こどもまんなか月間」として、今年度から、新規事業として、「北九キッズスポーツマンプロジェクト」を実施する予定。普段スポーツになじみのないような子供がスポーツに触れられる取り組みとして、広報をはじめ、しっかりやっていきたいと思う。

事務局A：スポーツ推進計画の第1回検討会（7月5日開催）においては、非常に多くの貴重なご意見をいただいた。本市としては、一人でも多くの意見を新計画に載せて、作っていきたいと考える。本日出た意見に限らず、何か思いがあるものに関しては、後日、事務局まで伝えてもらえればと思う。

イ 「北九州マラソン2024」大会の報告及び次回大会の日程について概要について説明を行い、質問事項はなかった。

ウ 令和6年度全国高等学校総合体育大会について概要について説明を行い、質問事項はなかった。

エ 国際スポーツ大会等の誘致活動状況について概要について説明を行い、質問事項はなかった。

7 その他 傍聴者なし

8 問い合わせ先 都市ブランド創造局スポーツ部スポーツ振興課企画係
電話番号 093-582-2395